

中央アルプス ライチョウ復活報告会

～6年間のプロジェクト、復活への軌跡～

2025年12月20日(土) 13:00～16:30

駒ヶ根商工会館（商工会議所）



参加費無料
申し込み不要
200名までOK!

13:00 開会・あいさつ

13:10～13:40

報告1 中村 浩志（信州大学名誉教授）
復活した中央アルプスのライチョウ

13:40～14:10

報告2 秋葉 由紀（日本動物園水族館協会ライチョウ計画管理者）
中央アルプスで実施した野生復帰事業について

14:10～14:30

報告3 杉本 淳（株式会社ウィルアクト）
中央アルプスで実施したサルの追い払い

14:30～15:00

報告4 福田 真（環境省信越自然環境事務所）
保護増殖事業の終了と今後のライチョウ保全
(15:00～15:15 休憩)

15:15～15:30

報告5 北村 忍（中央アルプスライチョウサポーターズクラブ）
ライチョウの保護活動に参加して

15:30～15:45

報告6 河西 宏樹（信濃毎日新聞松本報道部兼写真映像部）
撮影と取材を通して知ったライチョウの魅力

15:50～16:30

意見交換会
復活した中央アルプスのライチョウの保護と活用の今後

講演者プロフィール



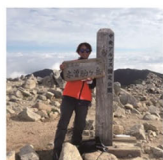
中村 浩志

専門は鳥類生態学。信州大学名誉教授、理学博士。学生のころからライチョウに関する研究を行い、信州大学退職後の現在もライチョウの調査と保護活動に取り組む。中央アルプスにライチョウを復活させる環境省事業の総指揮をとり、事業の成功に貢献したことから、2024年の秩父宮記念山岳賞を受賞。



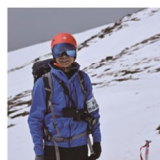
福田 真

環境省信越自然環境事務所 生息地保護連携専門官。学生時代、信州大学で中村浩志教授の研究室に所属していた。2015～19年度まで信越自然環境事務所でライチョウの保護増殖事業を担当。その後、2025年度に再び信越事務所に着任し、ライチョウの保護増殖事業等の業務を担当する。これまでにヤンバルクイナ・イリオモテヤマネコ・海ワシ類等の保全を担当。



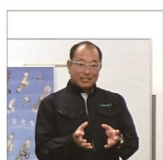
秋葉 由紀

富山市ファミリーパーク飼育展示第二係長・獣医師。2010年からスバルライチョウ、また2015年からのニホンライチョウの飼育開始当初から担当獣医師として健康管理に関わり、2018年から公益社団法人日本動物園水族館協会生物多様性委員会ライチョウ計画管理者として、日本の動物園でのライチョウ生息域外保全事業の総指揮をとる。



北村 忍

農学博士。中央アルプス雷鳥サポーターズクラブ代表。故郷のシンボルである中央アルプスにおけるライチョウの保護増殖事業のサポートができればと、中央アルプス雷鳥サポーターズクラブに入会。2023年5月に中央アルプスで調査活動をされていた中村先生にお会いしてから、本格的に保護増殖活動のお手伝いを始めた。



杉本 淳

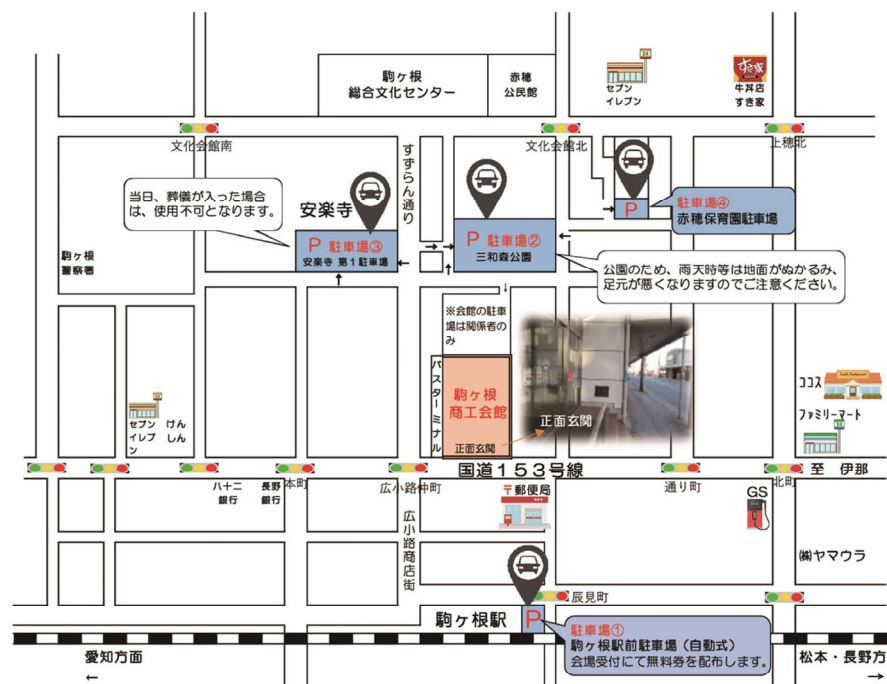
株式会社ウィルアクト環境部建設コンサルタント課長。長野オリンピックを契機に自然環境調査に従事する。ライチョウ調査に従事し始めたのは2012年。中村浩志氏に専門家の手厚い指導を受け、ライチョウ調査に係る技術を取得。2021年から実施された中央アルプスのサル追い払い業務を経て、現在は中央アルプスの高山帯におけるポスザルとなる。



河西 宏樹

信濃毎日新聞写真記者。2020年に入社し、上田支社での警察担当などを経て、現在は松本本社に勤務しスポーツやイベントなどを撮影。今年4月から連載している大型写真企画「雷の鳥」を担当している。野鳥の撮影や魚捕りに熱中した幼少期を経て、大学時代は風景の定点撮影やハケ岳連峰の撮影に取り組んだ。29歳。

会場位置図と無料駐車場



駐車場が
わかりづらいので
気を付けてね!



お問い合わせ
環境省信越自然環境事務所野生生物課
026-231-6573

※会場や駐車場については
駒ヶ根市生活環境課
0265-83-2111 (内線 541)